

農業振興課主任 齊藤 大貴



## ○消雪が遅い反面、生育は前進

今冬の管内平均積雪量は平年より多く、最も多かった2月下旬の平均積雪量は160cmでした。また、積雪量が多かったため本年の消雪は早い地点で前年より2週間程遅い4月5日となりました。

当JA管内における「ぶじ」の発芽日は、早い地点で昨年よりも2日遅い4月7日となりました。

1回目の「展葉一週間後頃」における薬剤散布は生育が早い地点で4月23～24日頃と見込まれます。

(4月8日現在) なお、気温が高く推移した場合や、降雨がある場合は更に早まることが予想されます。開花については、今後の気温が平年並みに推移した場合、黒石のりんご研究所で5月6日頃と予想されています。(ふじ)

(注) 消雪が遅く地盤が緩んでいる場合、SSでの薬剤散布は非常に危険です。安全を第一に考え、1回目の薬剤散布が困難な場合は農作業事故防止の観点から中止し、

## 「開花直前」における薬剤散布から本年の防除を開始して下さい。

### ○凍霜害に注意!

降霜は一般的に晴天無風で、午後7時の気温が6度以下の日の翌朝に発生する危険性が高いことから、気象情報等に十分注意し、防霜ファンを設置している園地では機器の始動点検を行って下さい。防霜ファンを設置していない園地では霜害防止対策資材の準備を行い、被害の軽減に努めて下さい。

### ○結実量確保に向けて

近年、開花期間中における気象条件の変化によりカラマツが発生しています。マメコバチも減少傾向にあるため、積極的に人工授粉を行います。

### ○農薬散布にあたっての注意事項

- 散布は降雨前に実施
- 散布間隔は10日以内を守る
- (6月中旬まで…黒星病重点防除時期)
- 適期・適量散布を徹底する
- 農作業事故には十分注意する

## ●りんご病害虫防除暦 (第5回目まで)

散布計画	散布量	散布時期	基準薬剤	希釈倍数	備考
1	300ℓ	展葉1週間後頃	ベフラン (液) バリアード (顆水) ハーベストオイル	1,000倍 4,000倍 200倍	●混用順序 ①水→②ハーベストオイル→③バリアード (顆水) → ④ベフラン (液)
2	320ℓ	開花直前	パレード (F) 又はカナメ (F) アタブロンSC	2,000倍 4,000倍 4,000倍	●昨年、褐斑病が多発した園地ではパレード15 (F) を 選択する。
3	350ℓ	落花直後	ミギワ20 (F) ジマンダイセン (水) アタブロンSC 果面保護剤	4,000倍 600倍 4,000倍	●リンゴハダニの発生が見られる場合は、バロック (F) を 加用する (豪雪の影響により展葉一週間後頃の薬剤 散布が実施できず、ハーベストオイル200倍の散布が されていない場合も含む)。
5月中旬 コンフューザーRの設置 (100本/10a)					●コンフューザーRを5月下旬までに設置し、ハマキム シ類及びシンクイムシ類における次世代の密度低下に 努める。
4	350ℓ	落花10日後	デラン (F) エルサン (水) 果面保護剤	1,500倍 1,000倍	●デラン (F) とユニックス (顆水) の混用は避ける。
5	420ℓ	落花20日後	ジマンダイセン (水) サイアノックス (水) 果面保護剤	600倍 1,000倍	

※赤字表記は本年の防除暦に新しく採用された薬剤。

# 果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素からJA相馬村フルーツテーションをご利用いただき誠にありがとうございます。3月の果実販売動向をお伝えします。

イチゴにつきましては九州・中部・関東などの各産地において潤沢な出荷となりました。企画も多く組まれ、売り場も広く確保されて3月の果実売り場の中心はイチゴという状況となりました。ただし、入荷量に対して末端の消費が追いついておらず、流通在庫が増加することとなり、売価を下げての販売となるとともに市場での価格も下げ基調での販売となりました。

中・晩かん類につきましては前から引き続き総体量の少ない状況が続きましたが、売価高もあり大玉を中心に苦しい販売が続きます。価格は下げ基調での販売となりました。また、月の後半にかけて消費地の気温上昇などにより品質低下も顕著になり、価格の下げ幅が拡大していくことになりました。

リンゴにつきましては、売り場がイチゴ中心となっていたためリンゴの売り場は縮小傾向となり、

荷動きは緩慢な状況となりました。JA系統のリンゴは3月にはすべてCA品に切り替わり、業者関係についても徐々に切り替わりが進みましたが、市場では普通冷蔵品の在庫が残っており、普通冷蔵品に関しては品質懸念、CA品に関しては普通冷との価格差を主な要因としてどちらか厳しい販売が続いております。

今後イチゴに関しては4月に入ると入荷量のピークは過ぎ、総体量は減少していきませんが、品質懸念が強まっていきます。そのため3月の広い売り場を確保しつつ、回転率を重視しての販売になる見通しで価格はおおむね保合いでの推移となる見込みです。

中・晩かん類に関しては、市場価格の低下から売価も値下げが進む動きがみられ、こちらも品質懸念の高まりもあり、価格は下げ基調が進みますが、荷動きは回復する見通しです。

リンゴに関しては、末端では限定的な売り場展開が4月も続く見通しの中、企画の中心となる36玉

については、継続的な引き合いが見込まれます。ただし一時的に入荷量が減少していたサンふじが増加する見通しであること、安価な転送料品が多く出回っていることもあり、3月も引き続き流通在庫が多い中での販売となります。そのため荷動きの鈍い状況は続き、価格は下げ基調での展開が予想されます。

本年は、年明けから厳しい販売が続きます。基本的には高値傾向ではあるもののここに来て徐々に下げ基調での展開が続いております。これからスマートフレッシュ・CA貯蔵品の販売が中心となっていきますが、例年より長い期間在庫を抱えているの販売となる可能性があるため、例年以上に品質管理には注意しつつ有利販売に努めてまいります。



全農あおもりデータ（3/31累計）

品 種	サンつがる	早生ふじ	ト キ	きおう	王 林	シナゴルド	サンジョナ	サンふじ	その他	合計
単 価 (円)	2,975	4,196	3,459	3,240	4,234	4,356	4,431	4,607	4,263	4,150
前 年 比 (%)	90	96	94	104	104	110	105	119	105	108
販売数量 (箱)	738,116	495,063	201,444	116,370	402,837	47,891	274,958	2,812,623	689,905	5,789,313
前 年 比 (%)	120	94	113	76	96	96	125	88	89	97

※10kgダンボール1箱当たりの数値となります